

令和7年度 山形県立長井工業高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標 （目指す生徒像）	(1)「人間性の育成」責任感と協調性を重んじ、礼儀正しく思いやりのある、心身共に健康な人間の育成
	(2)「創造性の育成」確かな学力を身に付け、創造性豊かで実践力のある、たくましい人間の育成
	(3)「社会性の育成」ものづくりと、地域と連携した活動を通して、社会に貢献できる人間の育成

第7次山形県教育振興計画

目標：ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり

【県民みんなでチャレンジ】4つの重点的取組み

1『体験』2『探究』3『尊重』4『協働』

【達成度】A:十分達成できた B:ある程度達成できた C:あまり達成できていない D:まったく達成できていない

自己評価						学校関係者評価		総 括
番号	重点目標		評価基準		目標の達成状況、達成にむけた取組み状況と分析	達成度	成果と課題、次年度に向けた改善策	
1	社会を生き抜く 確かな学力の育成	学習指導	①	「観点別学習状況の評価」実施を含めた指導の質の向上と評価の改善	教職員による評価の平均がB以上になること。	B	研修会及び職員会議での議論を経て、令和8年度からの成績規定を一部見直す予定である。観点別評価と評点の整合性を図ることについては、次年度以降も、継続的に取り組むべき課題である。	・卒業式での返事や校歌斉唱が素晴らしい。 ・SNSのトラブルや部活動の任意加入・地域展開など教育に係る諸課題について、今後も中高で情報共有していきたい。 ・生徒・保護者等のアンケート結果から、学校に対する満足度の高さが窺える。
②			一人一台端末等のICTを活用した一層の授業改善とAI活用の推進に向けた研究	他にも便利な機能があるので、各機能を活かし、連携しながら効率的に学習を援助していきたい。教員の使用端末について、県で運用するシステム等を導入していきたい。(学校独自サービスでは管理及び運用が困難を極めるため。)				
③			「総合的な探究の時間」におけるキャリア教育を意識した切れ目のない指導内容の確立	(1学年)計画を見える形で提示しつながりを説明する必要がある。書く機会が減ってきている現状をふまえ、次年度は志望理由書の作成や作文添削などを実施する。 (2学年)言語化により個々の進路課題を意識させることができた。次年度に向け進路実現につなげる指導計画を整備する。				
④			多文化共生社会の実現に向けた外国人材等との交流による異文化理解の促進	その後ホームタウン騒動はJICAの撤回により収まったが、最後まで本校に対する誹謗中傷はなく、生徒・職員とも安心して通常通りの学校生活を送ることができたのは不幸中の幸いだった。6月の訪問団受入れの際は生徒が非常に好意的に接してくれたものの、職員の負担が増えたため、今後の持続可能な交流の在り方について、関係各署と連携しながら模索中である。				
2	社会で自立できる 基礎的な力と実践力の育成	生徒指導 特別活動 進路指導	①	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上(SNS利用、成年年齢引き下げ対応を含む)	教職員による評価の平均がB以上になること。	B	基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上について、概ね達成することができた。ただ、一部生徒が守らない場面も見られることがあり日常的な声かけ指導を継続していく。SNSの利用について「適切な利用方法」、「利用マナー」、「トラブル回避」等、トラブルを防ぐために、今後も継続的に情報モラル教育を実施する。	・学校全体の連携やコミュニケーションが成果に表れている。 ・タンザニアとの交流について、長井市では歴史ある取組みであり、今後も胸を張って継続していきたい。 ・部活動の任意加入について、高校生活ならではの経験・思い出づくりのためにも積極的に取り組んでほしい。 ・いじめ問題は大きな事件がなく、落ち着いた高校生活を送れていると思う。 ・出席率が直近3年間で最も高く、素晴らしい。今後も継続してほしい。
			②	特別活動や部活動、コンテスト等への積極的な参加の推進			生徒数が少ないながらも、今年度は部活動やコンテスト等で大きな成果を上げることができた。今後も生徒の活動機会の充実を目指し、積極的な参加を継続して促していく。 特別活動については、生徒会活動や学校行事、ボランティア活動への積極的な参加を支援し、人間関係形成や自己実現、社会参画できる力を身に付けられるようにする。	
			③	SDGsに関する取組みやボランティア活動への積極的な参加の推進			工業科では来年度もSDGsや地域貢献を意識した課題設定に努める。執行部だけが取り組んできた古紙回収は、生徒会全体に広げる取り組みを計画していきたい。 情報機器(Classroom等)を活用してのボランティア募集情報共有に一定の効果が見られたので、さらに工夫して取り組みたい。 生徒会が中心となて行うボランティア活動と、学校行事として行う全校ボランティア活動との関連性を考えながら実施していきたい。	
			④	キャリア教育と基礎学力向上が結びついた進路指導の更なる研究			希望が叶わなかった進学希望者がいたほか、内定先からより高い学力を求められたケースがあった。基礎学力の向上や適性検査対策、面接試験に向けた指導をさらに充実させていく必要がある。	
3	安心・安全で元氣な 学校づくり	いじめ防止 保健衛生 安全指導	①	いじめ防止と早期発見後の組織的な取組みに対する共通理解の促進	教職員による評価の平均がB以上になること。	B	全教員が「いじめの定義」を理解し、一致協力して取り組むことができた。いじめ発見後の対応も即時に対応し解決することができた。 次年度のいじめ防止対策計画として、本校の「学校いじめ防止基本方針」の確認や外部講師による教員研修、生徒・保護者等アンケート及び生徒面談の実施、Q-Uの実施・面談、情報交換・収集を継続する。 生徒主体の取り組み活動については、スローガンの作成や標語の作成・掲示、放送による啓蒙活動を計画していきたい。 日常の健康観察や定期健康診断、保健講話など、保健関連の様々な取り組みにより、生徒たちは自己の健康管理について意識し、意欲的に取り組む姿がみられた。日常の健康管理についての意識を更に高めるために、生徒保健委員会の活動を推進するとともに、保健だより等を通して健康管理についての情報を生徒や保護者等に提供し、心身の健康が図られるようにする。	・就職内定は7割が地元とのことで、引き続ききめ細やかな進路指導を期待する。 ・工業高校の生徒や教職員の負担が大きくなっているので心配である。
			②	心身の健康を保持増進するための実践力の育成(検診後の受診率の向上、自己肯定感を高めるための取組み)				
			③	自他のいのちを守る安全教育の推進(交通安全、実技・実習等での事故防止)			実習等において重大事故は発生しなかった。次年度も実習室等の環境整備及び職員研修を進め、安全性の向上を図る。	
4	地域に貢献し信頼される 学校づくり	地域連携 情報公開	①	学校の応援団としての産業教育連携協議会との連携強化	教職員による評価の平均がB以上になること。	B	今年度で県の事業が終了し、次年度は必要に応じて自走することになっている。業務を精選し地域の関係機関の支援を取りながら、持続可能な今後の在り方について検討していく。	・地域との連携が少なかったため、改善していきたい。 ・きめ細やかな心配りや声かけをしてくれる担任団に対する家庭の信頼が厚い。 ・学校の雰囲気落ち着いている今をチャンスととらえ、生徒を伸ばしてほしい。 ・今後もさらなる発展を目指してほしい。
			②	入学志願者を増加させるための地元中学校や地域へのPR活動の充実			入試改革を踏まえ、戦略的な行事日程・内容を計画し、学校説明会をはじめとする各種PR活動を展開していく。 SNS(instagram)は、投稿頻度を上げていきたい。	
			③	PTA活動の充実を含めた保護者等との連携			PTA総会への参加者を増やすように努めていく。長工祭における模擬店運営は昨年に引き続き大盛況だったため、次年度も継続していく。	
			④	地域と連携した生徒の健全育成と郷土愛を育む教育の継続実施(「学校奉仕活動」等)			令和8年度も全校ボランティア活動を2回計画して進めていきたい。1回目は長井市やボランティア団体との連絡調整をしながらあやめ公園の清掃活動(実施時期と実施方法の検討)、2回目は生徒が日常的に使用しているあやめ公園多目的運動広場の整備として計画していきたい。 これまで米沢養護学校西置賜校と共同で実施してきたが、諸般の事情から別の機会での交流を企画していく。	
			⑤	SNSを活用した訴求力のある情報発信			複数の教員が担当し、Instagramへの投稿を様々な形で実現できた。(投稿・ルール・ハイライト等) 投稿頻度が低いことから閲覧数が伸び悩んでいるため、より簡便に投稿できるよう、起案体制の変更を検討していく。	